



四半期報告書

(第76期 第3四半期)

自 平成24年10月1日
至 平成24年12月31日

オムロン株式会社

第76期 第3四半期（自平成24年10月1日 至平成24年12月31日）

四半期報告書

- 本書は金融商品取引法第24条の4の7第1項の規定に基づく四半期報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成25年2月13日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書では、四半期レビュー報告書を末尾に綴じ込んでおります。

オムロン株式会社

目 次

	頁
第76期 第3四半期 四半期報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
(1) 【株式の総数等】	7
(2) 【新株予約権等の状況】	7
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	7
(4) 【ライツプランの内容】	7
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	7
(6) 【大株主の状況】	8
(7) 【議決権の状況】	8
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
(1) 【四半期連結貸借対照表】	10
(2) 【四半期連結損益計算書】	12
(3) 【四半期連結包括損益計算書】	14
(4) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	16
2 【その他】	35
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	36
四半期レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第76期 第3四半期（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）
【会社名】	オムロン株式会社
【英訳名】	OMRON Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山 田 義 仁
【本店の所在の場所】	京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町801番地
【電話番号】	京都(075)344-7070
【事務連絡者氏名】	執行役員 理財センタ長 大 上 高 充
【最寄りの連絡場所】	京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町801番地
【電話番号】	京都(075)344-7070
【事務連絡者氏名】	執行役員 理財センタ長 大 上 高 充
【縦覧に供する場所】	オムロン株式会社東京事業所 (東京都港区港南2丁目3番13号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜1丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第3四半期 連結累計期間	第76期 第3四半期 連結累計期間	第75期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高 (百万円) (第3四半期連結会計期間)	452,859 (149,601)	463,681 (159,465)	619,461
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期(当期)純利益 (百万円)	26,323	28,216	33,547
当社株主に帰属する四半期(当期) 純利益(△純損失) (百万円) (第3四半期連結会計期間)	11,641 (△1,357)	20,684 (8,413)	16,389
四半期包括利益又は包括利益(△損 失) (百万円)	△2,302	30,165	14,139
株主資本 (百万円)	307,343	347,900	320,840
総資産額 (百万円)	523,283	559,473	537,323
基本的1株当たり当社株主に帰属す る四半期(当期)純利益(△純損 失) (円) (第3四半期連結会計期間)	52.89 (△6.17)	93.96 (38.22)	74.46
希薄化後1株当たり当社株主に帰属 する四半期(当期)純利益 (円)	52.89	93.96	74.46
株主資本比率 (%)	58.7	62.2	59.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	12,983	31,932	31,946
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△17,688	△20,421	△26,486
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△22,498	△4,319	△33,492
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	44,699	54,726	45,257

(注) 1 当社の連結財務諸表および四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

2 売上高には、消費税等は含まれていない。

3 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の経済情勢について概観すると、日本では自動車業界は堅調に推移するも半導体業界などが低迷し、景況感は悪化した。米国では自動車業界等は堅調に推移したが、全体の景況感は鈍化した。欧州では金融不安による経済悪化に底打ち感はあるものの低迷は継続した。中国では底堅い需要はあるものの、経済情勢の悪化などにより成長率は鈍化した。アジアではタイの復興需要を含めアセアン新興国は堅調に推移するも、半導体業界は低迷した。

また、当社グループ関連市場においては、自動車関連では欧州以外での設備投資・部品需要は堅調に推移した。半導体関連ではスマートフォンを除く設備投資需要は低調に推移した。工作機械関連では新興国向けを中心に設備投資需要は堅調に推移した。家電・電子部品関連では白物家電向け設備投資・部品需要は堅調に推移した。健康機器関連では新興国の経済成長に伴う購買層の増加で需要は堅調に推移した。

このようななか、当社グループは当期の年度方針を「Accelerate VG2020！ ～“競争能力強化”による高成長構造と高収益構造の実現～」とし、実行プランとして「IA事業の最強化」、「アジア・中国を中心とした、新興国での売上拡大」、「強いビジネスモデルの構築による、環境事業の売上拡大」を進め、着実に中長期の売上・利益拡大に向けた施策を実行している。

その結果として当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、東日本大震災やタイ洪水等の一時的な変動要因があった前年同期比ではインダストリアルオートメーションビジネス（制御機器事業）で売上高が伸び悩んだものの、オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス（車載事業）、ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス（社会システム事業）、ヘルスケアビジネス（ヘルスケア事業）が好調に推移し、売上高は4,636億81百万円（前年同期比2.4%増）となった。営業利益（※）は278億48百万円（前年同期比7.6%減）、法人税等、持分法投資損益控除前四半期純利益は282億16百万円（前年同期比7.2%増）、当社株主に帰属する四半期純利益は206億84百万円（前年同期比77.7%増）となった。営業利益の減少は、主にユーロ安、インダストリアルオートメーションビジネス（制御機器事業）における前年度の一時的な売上増（東日本大震災の影響による一時的な需要増）の反動によるものである。また、法人税等、持分法投資損益控除前四半期純利益の前年同期比増加の主な要因は為替差損の減少によるもので、当社株主に帰属する四半期純利益の前年同期比増加の主な要因は、日本の法人税率引下げに関連する法律が成立したことに伴い、前年同期に繰延税金資産を取崩したことによるものである。

なお、当第3四半期連結累計期間における対米ドルおよび対ユーロの平均レートはそれぞれ80.4円（前年同期比1.2円の円安）、103.2円（前年同期比8.2円の円高）となった。

（※） 「営業利益」は、「売上高」から「売上原価」、「販売費及び一般管理費」および「試験研究開発費」を控除したものを表示している。

オペレーティング・セグメントの業績は、次のとおりである。

① インダストリアルオートメーションビジネス(制御機器事業)

国内においては、自動車関連業界・電子部品関連業界は、ほぼ前年同期並みの需要で推移したが、半導体関連業界では設備投資需要が低調に推移したことから売上高が伸び悩んだ。当第3四半期連結累計期間における国内売上高は、東日本大震災やタイ洪水の影響による前年同期の一時的な売上増の反動もあり、前年同期比で減少した。

海外においては、米州では好調な自動車業界に支えられ堅調に推移した。欧州では景気低迷への底入れ感はあるものの需要は低調に推移した。また、中国では底堅い需要はあるものの前年同期の一時的な売上増の反動もあり低調に推移した。アジアでは新興国全体の底堅い需要はあるものの、韓国の半導体業界等の設備投資抑制などにより需要は低迷した。それらの結果、当第3四半期連結累計期間における海外売上高は前年同期比で減少した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、1,965億61百万円（前年同期比6.6%減）（うち外部顧客に対する売上高は、1,924億52百万円（前年同期比6.5%減））、セグメント利益は202億90百万円（前年同期比26.9%減）となった。

② エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス(電子部品事業)

国内においては、民生業界の需要は下期以降、事務機器業界やモバイル業界などで拡大し、インフラ関連業界の需要も堅調に推移した。その結果、当第3四半期連結累計期間における国内売上高は前年同期比で増加した。

海外においては、米州では自動車業界の需要は増加したが、民生業界向けは減少した。欧州では景気低迷が継続していることにより需要が減少した。また、中国・アジアでは欧州の景気低迷に伴う輸出不振により売上高は横ばいに推移した。それらの結果、当第3四半期連結累計期間における海外売上高は前年同期比で減少した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、994億50百万円（前年同期比3.5%減）（うち外部顧客に対する売上高は、619億46百万円（前年同期比0.1%減））、セグメント利益は44億96百万円（前年同期比23.8%減）となった。

③ オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス(車載事業)

国内においては、政府によるエコカー購入支援策（エコカー減税の延長・補助金復活）や軽自動車の販売好調などにより、自動車需要は好調に推移した。当第3四半期連結累計期間における国内売上高は、東日本大震災やタイ洪水の影響による前年同期の一時的な売上減の反動もあり、前年同期比で増加した。

海外においては、金融不安による欧州経済の緊縮財政や雇用環境の悪化および中国における日系自動車メーカーの急激な販売の減少の影響により一部の需要は低迷したが、総じて海外自動車メーカーや新興国市場の需要は好調に推移した。その結果、当第3四半期連結累計期間における海外売上高は、タイ洪水の影響による一時的な売上減の反動もあり、前年同期比で増加した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、718億27百万円（前年同期比16.8%増）（うち外部顧客に対する売上高は、716億60百万円（前年同期比17.0%増））、セグメント利益は40億53百万円（前年同期比119.4%増）となった。

④ ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス(社会システム事業)

駅務システム事業においては、鉄道事業各社の旅客収入は、東日本大震災の影響の反動等により前年同期比で回復し、駅務機器の更新投資は堅調に推移した。この結果により券売機・改札機等の機器の納入および関連設置工事が拡大し、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で増加した。

交通管理・道路管理システム事業においては、東日本大震災の影響による前年同期の一時的な復旧需要が一巡したこともあり当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比並みに推移した。

環境ソリューション事業においては、再生可能エネルギーの全量買取制度の導入や環境関連投資促進税制の拡充が公表されたことを追い風として、新型機種の投入や販路拡大へ注力した結果、太陽光発電関連商品が好調に推移した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、395億21百万円（前年同期比10.8%増）（うち外部顧客に対する売上高は、368億5百万円（前年同期比11.6%増））、セグメント損失は25億88百万円（前年同期は38億4百万円の損失）となった。

⑤ ヘルスケアビジネス(ヘルスケア事業)

国内においては、家庭向け健康機器の新商品（血圧計、体重体組成計、婦人用電子体温計、電動歯ブラシ、マッサージ機器、ねむり時計、睡眠計）の販売が好調に推移し、主力商品である血圧計も好調な売上を維持するなど堅調に推移した。医療機関向け機器は、医療機関における慎重な投資姿勢もあり、横ばいに推移した。結果として当第3四半期連結累計期間における国内売上高は、東日本大震災の影響による前年同期の一時的な売上減の反動もあり、前年同期比で増加した。

海外においては、金融不安が落ち着きつつある中で、南欧・東欧市場の需要低迷は依然として続いているものの、ロシア・中国・東南アジアなどの新興国では健康機器商品の需要の増加が継続しており、当第3四半期連結累計期間の海外売上高は総じて好調に推移した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、520億42百万円（前年同期比12.3%増）（うち外部顧客に対する売上高は、519億79百万円（前年同期比12.3%増））、セグメント利益は37億33百万円（前年同期比27.0%増）となった。

⑥ その他

その他のセグメントでは、新規事業の探索・育成と、社内カンパニーに属さない事業の育成・強化を本社直轄事業として担当している。

環境事業推進本部では、代替電力対策として、太陽光発電に対する期待が高まる中、ソーラーパワーコンディショナ（創エネ事業）の需要増などにより当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で増加した。

電子機器事業本部は、無停電電源装置は電力供給不安に対する需要が堅調に推移するも、産業用組み込みコンピュータ、電子機器の開発・生産受託サービスの販売が低調に推移したため、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で減少した。

マイクロデバイス事業推進本部は、MEMSマイクロフォンチップおよび産業向けカスタムICの需要が急速に伸びた一方で半導体生産受託の急速な落込みにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で減少した。

バックライト事業は、スマートフォン市場が好調に推移している中で大型案件の立ち上がりにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で増加した。

この結果、当セグメント合計の当第3四半期連結累計期間における売上高は、573億40百万円（前年同期比12.9%増）（うち外部顧客に対する売上高は、441億74百万円（前年同期比11.7%増））、セグメント利益は15億89百万円（前年同期は29億32百万円の損失）となった。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末に比べ94億69百万円増加し、547億26百万円となった。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、非支配持分控除前四半期純利益の計上に加え売上債権の回収により、319億32百万円の収入（前年同期比189億49百万円の収入増）となった。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、生産設備等への投資実行などにより、204億21百万円の支出（前年同期比27億33百万円の支出増）となった。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いなどにより、43億19百万円の支出（前年同期比181億79百万円の支出減）となった。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、321億31百万円である。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	487,000,000
計	487,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成24年12月31日）	提出日現在 発行数（株） （平成25年2月13日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	239,121,372	239,121,372	東京証券取引所 （市場第一部） 大阪証券取引所 （市場第一部） フランクフルト証券取引所 （フランクフルト証券取引 所には、預託証券の形式 による上場）	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のな い当社における標準とな る株式。 単元株式数 100株
計	239,121,372	239,121,372	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （千株）	発行済株式 総数残高 （千株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金 増減額 （百万円）	資本準備金 残高 （百万円）
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	—	239,121	—	64,100	—	88,771

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしている。

① 【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 18,989,400	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 219,806,500	2,198,065	同上
単元未満株式	普通株式 325,472	—	同上
発行済株式総数	239,121,372	—	—
総株主の議決権	—	2,198,065	—

（注） 「完全議決権株式（その他）」の「株式数」および「議決権の数」の中には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ200株および2個含まれている。

② 【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) オムロン株式会社	京都市下京区塩小路通堀川 東入南不動堂町801番地	18,989,400	—	18,989,400	7.94
計	—	18,989,400	—	18,989,400	7.94

（注） 当第3四半期会計期間末現在における当社保有の自己株式数は18,990,685株である。

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員 の 異動はない。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）附則第4条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）および当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

区分	注記 番号	第75期 (平成24年3月31日)		第76期第3四半期 (平成24年12月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
資産の部					
流動資産					
現金及び現金同等物	(注記 I - F)	45,257		54,726	
受取手形及び売掛金		143,304		140,716	
貸倒引当金	(注記 I - F)	△2,205		△2,030	
たな卸資産	(注記 I - F)	92,253		101,461	
繰延税金	(注記 I - F)	17,975		18,149	
その他の流動資産	(注記 II - G, H, I)	11,513		11,925	
流動資産合計		308,097	57.3	324,947	58.1
有形固定資産					
	(注記 I - B, F)				
土地		26,950		27,255	
建物及び構築物		128,870		134,287	
機械その他		142,148		148,427	
建設仮勘定		7,417		7,153	
減価償却累計額		△184,679		△192,408	
有形固定資産合計		120,706	22.5	124,714	22.3
投資その他の資産					
関連会社に対する投資及び貸付金	(注記 I - D)	14,443		16,758	
投資有価証券	(注記 I - B, F, II - A, I)	36,161		34,013	
施設借入金保証金		7,219		6,983	
繰延税金	(注記 I - F)	34,516		33,998	
その他の資産	(注記 I - B, F)	16,181		18,060	
投資その他の資産合計		108,520	20.2	109,812	19.6
資産合計		537,323	100.0	559,473	100.0

区分	注記 番号	第75期 (平成24年3月31日)		第76期第3四半期 (平成24年12月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
負債の部					
流動負債					
短期債務		18,774		19,730	
支払手形及び買掛金・未払金		79,331		77,084	
未払費用		29,179		25,630	
未払税金		623		3,301	
その他の流動負債	(注記Ⅰ-F, Ⅱ-G, H, I)	24,989		25,575	
流動負債合計		152,896	28.5	151,320	27.0
繰延税金	(注記Ⅰ-F)	738	0.1	547	0.1
退職給付引当金	(注記Ⅰ-B, F)	60,432	11.2	56,338	10.1
その他の固定負債		1,577	0.3	1,699	0.3
負債合計		215,643	40.1	209,904	37.5
純資産の部					
株主資本	(注記Ⅰ-B, F, Ⅱ-F)				
資本金		64,100	11.9	64,100	11.5
普通株式					
授權株式数					
第75期	487,000,000株				
第76期第3四半期	487,000,000株				
発行済株式数					
第75期	239,121,372株				
第76期第3四半期	239,121,372株				
資本剰余金		99,078	18.4	99,066	17.7
利益準備金		10,034	1.9	10,875	1.9
その他の剰余金		260,557	48.5	277,318	49.6
その他の包括利益(△損失)累計額		△68,433	△12.7	△58,964	△10.5
為替換算調整額		△36,544		△26,967	
退職年金債務調整額		△38,815		△38,106	
売却可能有価証券未実現利益		6,995		6,236	
デリバティブ純損失		△69		△127	
自己株式		△44,496	△8.3	△44,495	△8.0
第75期	18,991,739株				
第76期第3四半期	18,990,685株				
株主資本合計		320,840	59.7	347,900	62.2
非支配持分		840	0.2	1,669	0.3
純資産合計		321,680	59.9	349,569	62.5
負債及び純資産合計		537,323	100.0	559,473	100.0

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

区分	注記 番号	第75期第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)			第76期第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)		
		金額 (百万円)		百分比 (%)	金額 (百万円)		百分比 (%)
売上高	(注記 I - F)		452,859	100.0		463,681	100.0
売上原価及び費用							
売上原価		283,596			292,730		
販売費及び一般管理費	(注記 I - F)	107,608			110,972		
試験研究開発費		31,518			32,131		
その他費用 (△収益) —純額—		3,814	426,536	94.2	△368	435,465	93.9
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期純利益			26,323	5.8		28,216	6.1
法人税等	(注記 I - F)		14,243	3.1		9,142	2.0
持分法投資損益 (△利益)			403	0.1		△1,542	△0.3
非支配持分控除前四半期純利益			11,677	2.6		20,616	4.4
非支配持分帰属損益 (△損失)			36	0.0		△68	△0.0
当社株主に帰属する四半期純利益			11,641	2.6		20,684	4.4
1株当たり利益	(注記 II - E)						
基本的							
当社株主に帰属する四半期純利益			52.89円			93.96円	
希薄化後							
当社株主に帰属する四半期純利益			52.89円			93.96円	

【第3四半期連結会計期間】

区分	注記 番号	第75期第3四半期連結会計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)		第76期第3四半期連結会計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)			
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)		
売上高	(注記 I - F)		149,601	100.0		159,465	100.0
売上原価及び費用							
売上原価		95,335			100,236		
販売費及び一般管理費	(注記 I - F)	36,035			38,867		
試験研究開発費		10,807			10,505		
その他費用 (△収益) —純額—		2,174	144,351	96.5	△1,139	148,469	93.1
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期純利益			5,250	3.5		10,996	6.9
法人税等	(注記 I - F)		7,036	4.7		3,563	2.2
持分法投資損益 (△利益)			△428	△0.3		△1,070	△0.6
非支配持分控除前四半期純利益 (△純損失)			△1,358	△0.9		8,503	5.3
非支配持分帰属損益 (△損失)			△1	△0.0		90	0.0
当社株主に帰属する四半期純利益 (△純損失)			△1,357	△0.9		8,413	5.3
1株当たり利益	(注記 II - E)						
基本的							
当社株主に帰属する四半期純利益 (△純損失)			△6.17円			38.22円	
希薄化後							
当社株主に帰属する四半期純損失			△6.17円			—	

(3) 【四半期連結包括損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

区分	注記 番号	第75期第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)		第76期第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
		金額 (百万円)		金額 (百万円)	
非支配持分控除前四半期純利益			11,677		20,616
その他の包括利益 一税効果考慮後	(注記Ⅱ－H)				
為替換算調整額			△11,744		9,657
退職年金債務調整額			519		709
売却可能有価証券未実現利益 (△損失)			△2,664		△759
デリバティブ純利益 (△純損失)			△90		△58
その他の包括利益 (△損失) 計			△13,979		9,549
四半期包括利益 (△損失)			△2,302		30,165
非支配持分に帰属する四半期包括利益			20		12
当社株主に帰属する四半期包括利益 (△損失)	(注記Ⅰ－F)		△2,322		30,153

【第3四半期連結会計期間】

		第75期第3四半期連結会計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)	第76期第3四半期連結会計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
非支配持分控除前四半期純利益 (△純損失)		△1,358	8,503
その他の包括利益 一税効果考慮後	(注記Ⅱ－H)		
為替換算調整額		1,169	18,916
退職年金債務調整額		175	206
売却可能有価証券未実現利益		250	2,510
デリバティブ純利益 (△純損失)		△14	△164
その他の包括利益計		1,580	21,468
四半期包括利益		222	29,971
非支配持分に帰属する四半期包括利益		1	183
当社株主に帰属する四半期包括利益	(注記Ⅰ－F)	221	29,788

(4) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

区分	第75期第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)		第76期第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
	金額 (百万円)		金額 (百万円)	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー				
1 非支配持分控除前四半期純利益		11,677		20,616
2 営業活動によるキャッシュ・フローへの調整				
(1) 減価償却費	16,241		16,402	
(2) 固定資産除売却損 (純額)	39		136	
(3) 投資有価証券売却益 (純額)	△261		△360	
(4) 投資有価証券の減損	385		693	
(5) 退職給付引当金	△4,325		△3,156	
(6) 繰延税金	7,023		872	
(7) 持分法投資損益 (△利益)	403		△1,542	
(8) 資産・負債の増減				
① 受取手形及び売掛金の減少	7,359		7,080	
② たな卸資産の増加	△20,303		△6,001	
③ その他の資産の増加	△545		△6	
④ 支払手形及び買掛金・未払金の増加 (△減少)	756		△2,479	
⑤ 未払税金の増加 (△減少)	△1,897		2,608	
⑥ 未払費用及びその他流動負債の減少	△4,720		△1,155	
(9) その他 (純額)	1,151		△1,776	
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,306		11,316
		12,983		31,932
II 投資活動によるキャッシュ・フロー				
1 投資有価証券の売却による収入		552		835
2 資本的支出		△19,366		△21,272
3 施設借入金保証金の減少 (△増加) (純額)		△94		317
4 有形固定資産の売却による収入		1,526		781
5 関連会社に対する投資及び貸付金の増加		△306		△1,884
6 事業の売却 (現金流出額との純額)		—		90
7 事業の買収 (現金取得額との純額)		—		98
8 非支配持分の買取		—		△10
9 その他 (純額)		—		624
投資活動によるキャッシュ・フロー		△17,688		△20,421
III 財務活動によるキャッシュ・フロー				
1 短期債務の増加 (△減少) (純額)		△15,811		922
2 親会社の支払配当金		△6,604		△6,164
3 非支配株主への支払配当金		△15		△2
4 非支配株主からの資本取引による入金額		—		819
5 その他 (純額)		△68		106
財務活動によるキャッシュ・フロー		△22,498		△4,319
IV 換算レート変動の影響		△2,833		2,277
現金及び現金同等物の増減額		△30,036		9,469
期首現金及び現金同等物残高		74,735		45,257
四半期末現金及び現金同等物残高		44,699		54,726
営業活動によるキャッシュ・フローの追記				
1 支払利息の支払額		195		193
2 法人税等の支払額		9,166		5,592
キャッシュ・フローを伴わない投資及び財務活動の追記				
資本的支出に関連する債務		2,201		487

6 株式報酬

提出会社の（四半期）財務諸表では、「ストック・オプション等に関する会計基準」および「ストック・オプション等に関する会計基準の適用指針」を適用している。

（四半期）連結財務諸表では、FASB会計基準書第718号「報酬－株式報酬」を適用している。

法人税等、持分法投資損益控除前四半期純損益影響額は、第75期第3四半期連結累計期間117百万円（損失）、第76期第3四半期連結累計期間176百万円（損失）、第75期第3四半期連結会計期間および第76期第3四半期連結会計期間においては、ない。

C 連結の範囲

（四半期）連結財務諸表には、全ての子会社が含まれている。

子会社：オムロンリレーアンドデバイス㈱、OMRON EUROPE B.V. ほか	第75期第3四半期末	計154社
	第76期第3四半期末	計152社
	第75期末	計153社

我国の（四半期）連結財務諸表規則によった場合と比較して重要な差はない。

D 持分法の適用

全ての関連会社に対する投資額は、持分法によって計上している。

持分法適用関連会社：日立オムロンターミナルソリューションズ㈱ ほか	第75期第3四半期末	計13社
	第76期第3四半期末	計12社
	第75期末	計12社

我国の（四半期）連結財務諸表規則によった場合と比較して重要な差はない。

E 子会社の事業年度

事業年度の末日が連結決算日と異なる子会社は第76期第3四半期末24社（第75期第3四半期末21社、第75期末22社）であり、これらのうち、22社（第75期第3四半期末17社、第75期末20社）については連結決算日の財務諸表を用い、それ以外の子会社については子会社の決算日の財務諸表を用いて作成している。各期においてこの決算日の相違により生じた重要な取引の差異はない。

F 会計処理基準

1 会計上の見積り

米国において一般に公正妥当と認められる会計原則に基づく（四半期）連結財務諸表作成に当たり、（四半期）期末日現在の資産・負債の金額、偶発的な資産・負債の開示および当該（四半期）期間の収益・費用の金額に影響を与える様々な見積りや仮定を用いており、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合がある。

2 現金及び現金同等物

現金同等物は、取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い投資からなっており、定期預金、コマーシャル・ペーパー、現先短期貸付金および追加型公社債投資信託の受益証券等を含んでいる。

3 貸倒引当金

貸倒引当金は主として当社および子会社の過去の貸倒損失実績および債権残高に対する潜在的損失の評価に基づいて、妥当と判断される額を計上している。

4 有価証券および投資

当社および子会社の保有する市場性のある負債証券および持分証券は、すべて売却可能有価証券に区分される。売却可能有価証券は未実現損益を反映させた公正価額で評価し、未実現損益は関連税額控除後の金額で「その他の包括利益（△損失）累計額」に表示している。

なお、売却可能有価証券については、その公正価額の下落が一時的でないとみなされる場合、当該四半期末もしくは連結会計年度末において、公正価額まで評価減を行い、評価減金額は当該期間の損益に含めている。売却可能有価証券の公正価値の下落が一時的であるかどうかを下落の期間や程度、発行体の財政状態や業績の見通しあるいは公正価値の回復が予想される十分な期間にわたって保有する意思等をもとに判断している。

その他の投資は、取得原価または見積り上の正味実現可能額のいずれか低い価額で計上している。売却原価の算定は、移動平均法によっている。

5 たな卸資産

たな卸資産は国内では主として先入先出法による低価法、海外では主として移動平均法による低価法で計上している。

6 有形固定資産

有形固定資産は取得原価で計上している。減価償却費はその資産の見積耐用年数をもとに、主として定率法（ただし、海外子会社の一部は定額法）で算出している。建物及び構築物の見積耐用年数は概ね3年から50年、機械その他の見積耐用年数は概ね2年から15年である。

7 のれんおよびその他の無形資産

F A S B 会計基準書第350号「無形資産－のれん及びその他」を適用している。当基準書は、のれんの会計処理について償却に替え、少なくとも年1回の減損判定を行うことを要求している。また、認識された無形資産について、それぞれの見積耐用年数で償却し、減損判定を行うことを要求している。認識された無形資産のうち耐用年数の特定できないものは、耐用年数が特定できるまでは減損判定が行われる。

8 長期性資産

長期性資産について、当該資産の帳簿価額を回収できない恐れのある事象または状況の変化が起きた場合には、減損についての検討を行っている。保有して使用する資産の回収可能性は、当該資産の帳簿価額を当該資産から生み出されると期待される現在価値への割引前のキャッシュ・フロー純額と比較することにより測定される。減損が生じていると考えられる場合には、帳簿価額が公正価額を上回る額を減損額として認識することになる。売却以外の方法により処分する資産については、処分するまで保有かつ使用するとみなされる。売却により処分する資産については、帳簿価額または売却費用控除後の公正価額のいずれか低い価額で評価している。

9 退職給付引当金

退職給付引当金は、F A S B 会計基準書715号「報酬－退職給付」に準拠し、従業員の退職給付に備えるため、当期末における予測給付債務および年金資産の公正価値に基づき計上および開示している。また、退職給付引当金には当社および子会社の取締役および監査役に対する退職給付に備える引当額を含んでいる。なお、四半期連結累計期間は、連結会計年度末における予測給付債務および年金資産の見込額等に基づき四半期連結累計期間において発生していると認められる額を計上している。

10 収益の認識

契約に関する説得力のある証拠の存在、商品が配達され、所有権および所有によるリスク負担が顧客に移転されたこと、またはサービスの提供が行われたこと、売価が固定または確定可能であること、債権の回収可能性が確からしいことのすべての条件を満たした場合に収益を認識している。

11 広告宣伝費

広告宣伝費は、発生時に費用認識しており、「販売費及び一般管理費」に含めて表示している。広告宣伝費の金額は、第75期第3四半期連結累計期間3,968百万円、第76期第3四半期連結累計期間5,656百万円、第75期第3四半期連結会計期間1,526百万円、第76期第3四半期連結会計期間2,229百万円である。

12 発送費および取扱手数料

発送費および取扱手数料は、「販売費及び一般管理費」に含めて表示している。発送費および取扱手数料の金額は、第75期第3四半期連結累計期間5,304百万円、第76期第3四半期連結累計期間5,577百万円、第75期第3四半期連結会計期間1,864百万円、第76期第3四半期連結会計期間1,914百万円である。

13 株式に基づく報酬

株式に基づく報酬の会計処理について、F A S B 会計基準書第718号「報酬－株式報酬」に従い、株式に基づく報酬費用は公正価値法により認識している。

14 法人税等

繰延税金は税務上と会計上との間の資産および負債の一時的差異、ならびに繰越欠損金および繰越税額控除に関連する将来の見積税効果を反映している。繰越欠損金や繰越税額控除に対する税効果は、将来において実現可能性があると認められる部分について認識している。税率の変更に伴う繰延税金資産および繰延税金負債への影響は、その税率変更に関する法律の制定日の属する連結会計年度において損益認識している。

当社および一部の国内子会社は、連結納税制度を適用している。

15 製品保証

製品保証費の見積りによる負債は、収益認識がなされた時点でその他の流動負債として計上している。この負債は、過去の実績、頻度、製品保証の平均費用に基づいている。

16 デリバティブ

F A S B 会計基準書第815号「デリバティブ及びヘッジ」を適用している。当基準書は、デリバティブ商品およびヘッジに関する会計処理および開示の基準を規定しており、すべてのデリバティブ商品を公正価額で貸借対照表上、資産または負債として認識することを要求している。

為替予約取引、通貨スワップ取引、金利スワップ取引および商品スワップ取引について、デリバティブ契約締結時点において、当社および子会社では予定取引に対するヘッジあるいは認識された資産または負債に関する受取または支払のキャッシュ・フローに対するヘッジ（キャッシュ・フロー・ヘッジ）に指定する。当社および子会社では、リスクマネジメントの目的およびさまざまなヘッジ取引に対する戦略と同様に、ヘッジ手段とヘッジ対象の関係も正式に文書化している。この手順は、キャッシュ・フロー・ヘッジとして指定されたすべてのデリバティブ商品を連結貸借対照表上の特定の資産および負債または特定の確定契約あるいは予定取引に関連付けることを含んでいる。当社および子会社の方針によると、すべての為替予約取引、通貨スワップ取引、金利スワップ取引および商品スワップ取引は、ヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動を相殺することに対し、高度に有効でなくてはならない。

ヘッジ対象が高度に有効であり、かつ、キャッシュ・フロー・ヘッジとして指定および認定されたデリバティブ商品の公正価額の変動は、指定されたヘッジ対象のキャッシュ・フローの変動が損益に影響を与えるまで、「デリバティブ純利益（△純損失）」に計上される。

17 海外子会社の（四半期）財務諸表項目の本邦通貨への換算

海外子会社の（四半期）財務諸表は、F A S B 会計基準書第830号「外貨に関する事項」に基づいて資産・負債項目は（四半期）決算日の為替相場、損益項目は期中平均為替相場によって換算している。なお、換算によって生じた換算差額は、為替換算調整額として「為替換算調整額」に計上している。

18 剰余金処分項目の取扱い

剰余金処分項目の取扱いは、繰上げ方式によっている。

19 包括損益

F A S B 会計基準書第220号「包括利益」を適用している。包括損益は四半期純損益および、為替換算調整額の変動、退職年金債務調整額の変動、売却可能有価証券未実現損益の変動ならびに、デリバティブ純損益の変動からなり、四半期連結包括損益計算書に記載している。

20 消費税等

消費税等については、税抜方式による会計処理を行っている。

II 主な科目の内訳及び内容の説明

A 有価証券

売却可能有価証券および満期保有有価証券の取得原価または償却原価、総未実現利益・損失、公正価額は次のとおりである。

第75期末

売却可能有価証券

	原価 (注) (百万円)	総未実現利益 (百万円)	総未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)
負債証券	10	—	—	10
持分証券	19,382	12,366	△236	31,512
合計	19,392	12,366	△236	31,522

(注) 負債証券については償却原価、持分証券については取得原価を表示している。

満期保有有価証券

	償却原価 (百万円)	総未実現利益 (百万円)	総未実現損失 (百万円)	公正価額 (百万円)
負債証券	150	—	—	150

第75期末現在における売却可能有価証券および満期保有有価証券に分類される負債証券の満期別情報は次のとおりである。

	原価 (百万円)	公正価額 (百万円)
1年以内	25	25
1年超5年以内	110	110
5年超	25	25
合計	160	160

第75期末現在で、継続して未実現損失を含んだ状態であった期間別の売却可能有価証券（持分証券）の総未実現損失と公正価額は次のとおりである。

	12ヶ月未満	
	公正価額 (百万円)	総未実現損失 (百万円)
持分証券	2,020	△236

(注) 継続して未実現損失を含んだ状態であった売却可能有価証券の総未実現損失について、未実現損失が継続的に発生している期間が比較的短期間であることおよびその他の関連する要因に基づいて一時的な公正価値の下落であると判断している。

第75期における売却可能有価証券の売却収入は415百万円であり、それらの売却益は318百万円、売却損はなしである。

売却可能有価証券に区分された持分証券について、市場価格の下落が一時的でないと考えられる事により認識した減損額は384百万円である。

第75期末現在における原価法により評価される市場性のない有価証券に対する投資額は4,514百万円である。第75期末現在において上記投資額のうち、減損の評価を行っていない投資の簿価は4,510百万円である。減損の評価を行わなかったのは、投資の公正価値を見積もる事が実務上困難なことからその見積りを行っていないため、また投資の公正価値に著しく不利な影響を及ぼす事象や状況の変化が見られなかったためである。

第76期第3四半期末
売却可能有価証券

	原価（注） （百万円）	総未実現利益 （百万円）	総未実現損失 （百万円）	公正価額 （百万円）
負債証券	10	—	—	10
持分証券	18,172	11,823	△730	29,265
合計	18,182	11,823	△730	29,275

（注）負債証券については償却原価、持分証券については取得原価を表示している。

満期保有有価証券

	償却原価 （百万円）	総未実現利益 （百万円）	総未実現損失 （百万円）	公正価額 （百万円）
負債証券	125	—	—	125

第76期第3四半期末現在における売却可能有価証券および満期保有有価証券に分類される負債証券の満期別情報は次のとおりである。

	原価 （百万円）	公正価額 （百万円）
1年以内	25	25
1年超5年以内	110	110
5年超	—	—
合計	135	135

第76期第3四半期末現在で、継続して未実現損失を含んだ状態であった期間別の売却可能有価証券（持分証券）の総未実現損失と公正価額は次のとおりである。

	12ヶ月未満	
	公正価額（百万円）	総未実現損失（百万円）
持分証券	5,186	△730

（注）継続して未実現損失を含んだ状態であった売却可能有価証券の総未実現損失について、未実現損失が継続的に発生している期間が比較的短期間であることおよびその他の関連する要因に基づいて一時的な公正価値の下落であると判断している。

第76期第3四半期連結累計期間における売却可能有価証券の売却収入は762百万円であり、それらの売却益は347百万円、売却損は0百万円である。

売却可能有価証券に区分された持分証券について、市場価格の下落が一時的でないと考えられる事により認識した減損額は、690百万円である。

第76期第3四半期末現在における原価法により評価される市場性のない有価証券に対する投資額は4,638百万円である。第76期第3四半期末現在において上記投資額のうち、減損の評価を行っていない投資の簿価は4,638百万円である。減損の評価を行わなかったのは、投資の公正価値を見積もる事が実務上困難なことからその見積りを行っていないため、また投資の公正価値に著しく不利な影響を及ぼす事象や状況の変化が見られなかったためである。

B リース

当社および子会社は、重要なキャピタル・リース契約は行っていない。

C 退職給付費用

当社および子会社は、大部分の国内従業員を対象として退職一時金および退職年金制度を採用している。当該制度を採用している退職給付制度に係る期間退職給付費用は、次の項目により構成されている。

	第75期第3四半期連結累計期間 (百万円)	第76期第3四半期連結累計期間 (百万円)
勤務費用（従業員拠出控除後）	3,213	3,296
予測給付債務に係る利息費用	2,503	2,535
年金資産の期待収益	△2,612	△2,648
償却費用	894	1,049
合計	3,998	4,232

	第75期第3四半期連結会計期間 (百万円)	第76期第3四半期連結会計期間 (百万円)
勤務費用（従業員拠出控除後）	1,071	1,098
予測給付債務に係る利息費用	834	845
年金資産の期待収益	△871	△883
償却費用	298	350
合計	1,332	1,410

D 株式に基づく報酬

定額ストックオプションの付与に伴い、第76期第3四半期連結累計期間に認識した株式に基づく報酬費用、定額ストックオプションの付与、および行使はない。

なお、当社が発行していたストックオプションは、平成24年6月30日付ですべて失効している。

E 1株当たり情報

当社は1株当たり利益の算出にあたり、FASB会計基準書第260号「1株当たり利益」を適用している。「希薄化後当社株主に帰属する1株当たり利益」算出における分子、分母はそれぞれ次のとおりである。なお、第75期第3四半期連結累計期間および第75期第3四半期連結会計期間ならびに第76期第3四半期連結累計期間および第76期第3四半期連結会計期間において、ストックオプションによる希薄化効果はない。

なお、当社が発行していたストックオプションは、平成24年6月30日付ですべて失効している。

分子

	第75期第3四半期 連結累計期間 (百万円)	第76期第3四半期 連結累計期間 (百万円)
当社株主に帰属する四半期純利益	11,641	20,684
希薄化後当社株主に帰属する四半期純利益	11,641	20,684

	第75期第3四半期 連結会計期間 (百万円)	第76期第3四半期 連結会計期間 (百万円)
当社株主に帰属する四半期純利益(△純損失)	△1,357	8,413
希薄化後当社株主に帰属する四半期純損失	△1,357	—

分母

	第75期第3四半期 連結累計期間 (株式数)	第76期第3四半期 連結累計期間 (株式数)
加重平均による期中平均発行済普通株式数	220,086,774	220,130,129
希薄化効果：ストックオプション	—	—
希薄化後発行済普通株式数	220,086,774	220,130,129

	第75期第3四半期 連結会計期間 (株式数)	第76期第3四半期 連結会計期間 (株式数)
加重平均による期中平均発行済普通株式数	220,085,648	220,131,396
希薄化効果：ストックオプション	—	—
希薄化後発行済普通株式数	220,085,648	—

F 純資産

第75期第3四半期連結累計期間における連結貸借対照表の株主資本、非支配持分および純資産の帳簿価額の変動は次のとおりである。

	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産合計 (百万円)
第74期末残高	312,753	899	313,652
当社株主への配当金	△3,082	—	△3,082
非支配株主への配当金	—	△15	△15
非支配株主との資本取引及びその他	—	—	—
自己株式の取得及びその他	△6	—	△6
四半期純利益	11,641	36	11,677
その他の包括利益 (△損失)	△13,963	△16	△13,979
第75期第3四半期末残高	307,343	904	308,247

第76期第3四半期連結累計期間における連結貸借対照表の株主資本、非支配持分および純資産の帳簿価額の変動は次のとおりである。

	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産合計 (百万円)
第75期末残高	320,840	840	321,680
当社株主への配当金	△3,082	—	△3,082
非支配株主への配当金	—	△2	△2
非支配株主との資本取引及びその他	△12	819	807
自己株式の取得及びその他	1	—	1
四半期純利益 (△純損失)	20,684	△68	20,616
その他の包括利益	9,469	80	9,549
第76期第3四半期末残高	347,900	1,669	349,569

G 金融商品およびリスク管理

金融商品の公正価額

第75期末および第76期第3四半期末現在、当社および子会社の有する金融商品の帳簿価額および見積公正価額は、次のとおりである。

	第75期末（百万円）		第76期第3四半期末（百万円）	
	帳簿価額	見積公正価額	帳簿価額	見積公正価額
（デリバティブ取引）				
その他の流動資産（△負債）				
為替予約取引	△703	△703	△1,291	△1,291
通貨スワップ取引	△16	△16	△13	△13
商品スワップ取引	—	—	22	22

それぞれの金融商品の公正価額の見積りにあたって、実務的には次の方法および仮定を用いている。

なお、公正価値の階層分類である、レベル1・レベル2およびレベル3のそれぞれの定義については、「注記Ⅱ-I 公正価値の測定」に記載している。

（デリバティブ取引以外）

(1) 現金及び現金同等物、受取手形及び売掛金、施設借用保証金、短期債務、支払手形及び買掛金・未払金
これらの公正価額は帳簿価額とほぼ等しいと見積っている。また、これらの公正価値について、現金及び現金同等物はレベル1、それ以外はレベル2にそれぞれ分類している。

(2) 投資有価証券（注記Ⅱ-A）

公正価額は時価または類似証券の時価に基づいて見積り算定している。投資に含まれる持分証券には容易に確定できる市場価額のないものがあり、これらの公正価額の見積りは実務上困難である。投資有価証券の公正価値については、レベル1に分類している。

（デリバティブ取引）

デリバティブ取引の公正価額は、当該取引契約を四半期末もしくは連結会計年度末に解約した場合に当社および子会社が受領する又は支払う見積り額を反映しており、この見積り額には未実現利益または損失が含まれている。当社および子会社のデリバティブ取引の大半については、ディーラー取引価格が利用可能であるが、そうでないものについては、公正価額の見積りに当たり、価格決定あるいは評価モデルを使用している。

なお、当社および子会社では、トレーディング目的のためのデリバティブ取引は行っていない。

また、デリバティブ取引の公正価値のレベル別情報は、「注記Ⅱ-I 公正価値の測定」に記載している。

H 金融派生商品とヘッジ活動

当社および子会社は、為替変動（主に米ドル、ユーロ）をヘッジするために為替予約取引、売建て・買建てを組み合わせた通貨スワップ取引および原材料価格変動（銅・銀）をヘッジするために商品スワップ取引を利用している。なお、当社および子会社は、トレーディング目的のためのデリバティブ取引は行っていない。また、当社および子会社は、デリバティブの契約相手による契約不履行の場合に生じる信用リスクにさらされているが、契約相手の信用度が高いため、そのような信用リスクは小さいと考えている。

キャッシュ・フロー・ヘッジとして指定および認定された為替予約取引、通貨スワップ取引および商品スワップ取引の公正価値の変動は、「その他の包括利益（△損失）累計額」として報告している。これらの金額は、ヘッジ対象資産・負債が損益に影響を与えるのと同期間において、為替予約取引、通貨スワップ取引については「その他費用（△収益）－純額－」として、商品スワップ取引については「売上原価」として損益に組替えられる。第76期第3四半期末現在、為替予約取引、通貨スワップ取引および商品スワップ取引に関連して「その他の包括利益（△損失）累計額」に計上されたほぼ全額は今後12ヶ月以内に損益に組替えられると見込まれる。

第75期末および第76期第3四半期末における為替予約取引等の残高（想定元本）は、次のとおりである。

	第75期末（百万円）	第76期第3四半期末（百万円）
為替予約取引	49,095	56,573
通貨スワップ取引	1,200	1,200
商品スワップ取引	—	694

第75期末および第76期第3四半期末におけるデリバティブの公正価値は次のとおりである。

ヘッジ指定のデリバティブ

資産

	科目	第75期末（百万円）	第76期第3四半期末（百万円）
為替予約	その他の流動資産	394	1,402
商品スワップ	その他の流動資産	—	22

負債

	科目	第75期末（百万円）	第76期第3四半期末（百万円）
為替予約	その他の流動負債	△1,096	△2,693
通貨スワップ	その他の流動負債	△16	△13

第75期におけるデリバティブの連結損益計算書への影響額は次のとおりである。

ヘッジ指定のデリバティブ

キャッシュ・フロー・ヘッジ

	その他の包括利益（△損失） に計上された損益（百万円） （ヘッジ有効部分）	その他の包括利益（△損失）累計額 から損益への振替（百万円） （ヘッジ有効部分）
為替予約	6	89
通貨スワップ	8	0
商品スワップ	△11	△146

なお、ヘッジ効果が有効でない金額に重要性はない。

第76期第3四半期連結累計期間におけるデリバティブの連結損益計算書への影響額は次のとおりである。

ヘッジ指定のデリバティブ

キャッシュ・フロー・ヘッジ

	その他の包括利益（△損失） に計上された損益（百万円） （ヘッジ有効部分）	その他の包括利益（△損失）累計額 から損益への振替（百万円） （ヘッジ有効部分）
為替予約	△83	63
通貨スワップ	3	0
商品スワップ	20	△61

なお、ヘッジ効果が有効でない金額に重要性はない。

I 公正価値の測定

FASB会計基準書第820号「公正価値の測定と開示」は、公正価値を測定日において市場参加者の間の秩序のある取引により資産を売却して受け取るであろう価格、または負債を移転するために支払うであろう価格と定義している。同基準書は、公正価値を測定するために使用するインプットを以下の3つのレベルに優先順位を付け、公正価値の階層を分類している。

レベル1・・・活発な市場における同一の資産または負債の市場価格。

レベル2・・・活発な市場における類似資産または負債の市場価格。活発でない市場における同一または類似の資産・負債の市場価格、観察可能な市場価格以外のインプットおよび相関関係またはその他の方法により観察可能な市場データから主として得られた、または裏付けられたインプット。

レベル3・・・資産または負債の公正価値測定に重要なインプットで、観察不能なインプット。

第75期末現在における継続的に公正価値で測定される資産および負債は次のとおりである。

	公正価値による測定額			
	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	計 (百万円)
資産				
投資有価証券				
負債証券	10	—	—	10
持分証券	31,512	—	—	31,512
金融派生商品				
為替予約	—	402	—	402
負債				
金融派生商品				
為替予約	—	1,105	—	1,105
通貨スワップ	—	16	—	16

投資有価証券

投資有価証券は、主に上場株式である。活発な市場における同一資産の市場価格で公正価値を評価しており、観察可能であるためレベル1に分類している。

金融派生商品

金融派生商品は、為替予約、通貨スワップおよび商品スワップである。外国為替レートおよび金利など観察可能な市場データを利用して公正価値を評価しているためレベル2に分類している。

第75期末現在における非継続的に公正価値で測定される資産および負債は以下のとおりである。

	損益計上額 (百万円)	公正価値による測定額			
		レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	計 (百万円)
資産					
投資有価証券	△6	—	—	4	4
長期性資産	△671	—	—	224	224
のれん	△2,009	—	—	—	—

第75期において、当社は、上記の資産に係る減損損失の認識に伴い、大部分の資産を観察不能なインプットに基づき評価しているため、当該資産をレベル3に分類している。これらのうち主な資産の公正価値は、将来の割引キャッシュ・フローの見積りに基づいて測定している。

第76期第3四半期末現在における継続的に公正価値で測定される資産および負債は次のとおりである。

	公正価値による測定額			
	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	計 (百万円)
資産				
投資有価証券				
負債証券	10	—	—	10
持分証券	29,265	—	—	29,265
金融派生商品				
為替予約	—	1,402	—	1,402
商品スワップ	—	22	—	22
負債				
金融派生商品				
為替予約	—	2,693	—	2,693
通貨スワップ	—	13	—	13

投資有価証券

投資有価証券は、主に上場株式である。活発な市場における同一資産の市場価格で公正価値を評価しており、観察可能であるためレベル1に分類している。

金融派生商品

金融派生商品は、為替予約、通貨スワップおよび商品スワップである。外国為替レートおよび金利など観察可能な市場データを利用して公正価値を評価しているためレベル2に分類している。

第76期第3四半期末現在において、非継続的に公正価値で測定される資産および負債は以下のとおりである。

	損益計上額 (百万円)	公正価値による測定額			
		レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	計 (百万円)
資産					
投資有価証券	△3	—	—	0	0
のれん	△153	—	—	105	105

第76期第3四半期連結累計期間において、当社は、上記の資産に係る減損損失の認識に伴い、大部分の資産を観察不能なインプットに基づき評価しているため、当該資産をレベル3に分類している。これらのうち主な資産の公正価値は、将来の割引キャッシュ・フローの見積りに基づいて測定している。

J コミットメントおよび偶発債務

当社および一部の子会社は、いくつかの未解決訴訟の被告となっている。しかし、当社および当社の弁護士が現時点で入手しうる情報に基づくと、当社の取締役会はこれらの訴訟が当四半期連結財務諸表に重要な影響を与えることはないことを確信している。

信用リスクの集中

当社および子会社にとって、信用リスク集中の恐れがある金融商品は、主として短期投資および受取手形及び売掛金である。短期投資については、取引相手を信用度の高い金融機関としている。また、受取手形および売掛金に関しては、売上高の約48%が日本国内に集中しているが、顧客の大半は優良で、業種も多岐にわたっているため、信用リスク集中の恐れは限られている。

なお、当社は原則として、掛売りの場合には顧客に担保を差し入れるよう要請している。

保証債務

当社はグループ外の会社の銀行借入金について、債務保証を行っている。関連会社およびグループ外の会社のための債務保証は、これらの会社がより少ない資金調達コストで運営するために行っている。債務不履行が発生した場合の最高支払額は、第76期第3四半期末現在、141百万円である。第76期第3四半期末現在、これらの債務保証に関して認識した負債の額に重要性はない。

環境対策費

当社および子会社は、環境対策に関する費用について、債務発生の可能性が確からしく、かつ金額を合理的に見積ることができる場合に負債に計上している。第76期第3四半期末現在、該当する環境対策費として553百万円を負債に計上している。

製品保証

当社および子会社は、ある一定期間において、提供した製品およびサービスに対する保証を行っている。第75期および第76期第3四半期連結累計期間における製品保証引当金の変動は以下のとおりである。

	第75期 (百万円)	第76期第3四半期 連結累計期間 (百万円)
期首残高	3,951	2,932
繰入額	1,237	1,259
取崩額（目的使用等）	△2,256	△1,752
期末残高	2,932	2,439

K 配当に関する事項（株主資本関係等）

現金配当額は、発生主義による繰上げ方式によっている。

第76期第3四半期連結会計期間に行われた現金配当は、第76期第2四半期連結会計期間の剰余金処分として連結財務諸表に計上している。

L 企業結合等

第76期第3四半期連結累計期間において該当事項はない。

M セグメント情報

【オペレーティング・セグメント情報】

FASB会計基準書第280号に基づくセグメント情報は次のとおりである。

FASB会計基準書第280号は、企業のオペレーティング・セグメントに関する情報の開示を規定している。オペレーティング・セグメントは、企業の最高経営意思決定者が経営資源の配分や業績評価を行うにあたり通常使用しており、財務情報が入手可能な企業の構成単位として定義されている。

当社は取扱製品の性質や社内における事業の位置付け等を考慮した上で、オペレーティング・セグメントに関する情報として、「インダストリアルオートメーションビジネス」、「エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス」、「オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス」、「ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス」および「ヘルスケアビジネス」の5つのオペレーティング・セグメントを区分して開示している。また、その他のオペレーティング・セグメントは「その他」に集約して開示している。

各セグメントの主要な製品は次のとおりである。

- (1) インダストリアルオートメーションビジネス(制御機器事業)
……プログラマブルコントローラ、モーションコントロール機器、センサ機器、検査装置、セーフティ用機器、レーザー微細加工装置、制御専用機器等
- (2) エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス(電子部品事業)
……リレー、スイッチ、コネクタ、アミューズメント機器用部品・ユニット、業務民生用センサ、モバイル機器搭載部品、顔認識ソフトウェア等
- (3) オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス(車載事業)
……電動パワーステアリングコントローラ、パッシングエントリープッシュエンジンスタートシステム、キーレスエントリーシステムなどの無線機器、多機能コントローラ、パワーウィンドウスイッチや各種車載用スイッチ等
- (4) ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス(社会システム事業)
……駅務システム、交通管理・道路管理システム、カード決済サービス、安心・安全ソリューション、環境ソリューション、関連メンテナンス事業等
- (5) ヘルスケアビジネス(ヘルスケア事業)
……電子血圧計、電子体温計、体重体組成計、歩数計・活動量計、睡眠計、電動歯ブラシ、血糖計、生体情報モニタ、血圧監視装置、ネブライザ、心電計、動脈硬化検査装置、内臓脂肪計等
- (6) その他
……ソーラーパワーコンディショナ、エネルギーマネジメント用機器、省エネサービス、産業用組み込みコンピュータ、無停電電源装置、電子機器の開発・生産受託サービス、MEMSフローセンサ、MEMSサーマルセンサ、MEMS圧力センサ、RF MEMSスイッチ、アナログIC、半導体受託サービス、中小型液晶モジュール用のLEDバックライトユニット、光学関連部品等

セグメント情報の会計方針は、実質的に米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に従っている。

各事業セグメントに直接関わる収益および費用は、それぞれのセグメントの業績数値に含め表示している。特定のセグメントに直接帰属しない収益および費用は、経営者がセグメントの業績評価に用いる当社の配分方法に基づき、各事業セグメントに配分されるかあるいは「消去調整他」に含めて表示している。

第75期第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

	インダストリアルオートメーションビジネス (百万円)	エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス (百万円)	オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス (百万円)	ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス (百万円)	ヘルスケアビジネス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去調整他 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
①外部顧客に対する売上高	205,910	61,978	61,238	32,985	46,302	39,536	447,949	4,910	452,859
②セグメント間の内部売上高	4,445	41,063	260	2,686	36	11,263	59,753	△59,753	—
計	210,355	103,041	61,498	35,671	46,338	50,799	507,702	△54,843	452,859
営業費用	182,591	97,140	59,651	39,475	43,398	53,731	475,986	△53,264	422,722
セグメント利益 またはセグメント 損失（△）	27,764	5,901	1,847	△3,804	2,940	△2,932	31,716	△1,579	30,137

(注) 1 セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じている。

2 「消去調整他」には、配賦不能営業費用、セグメント間の内部取引消去などが含まれている。

第76期第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

	インダストリアルオートメーションビジネス (百万円)	エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス (百万円)	オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス (百万円)	ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス (百万円)	ヘルスケアビジネス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去調整他 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
①外部顧客に対する売上高	192,452	61,946	71,660	36,805	51,979	44,174	459,016	4,665	463,681
②セグメント間の内部売上高	4,109	37,504	167	2,716	63	13,166	57,725	△57,725	—
計	196,561	99,450	71,827	39,521	52,042	57,340	516,741	△53,060	463,681
営業費用	176,271	94,954	67,774	42,109	48,309	55,751	485,168	△49,335	435,833
セグメント利益 またはセグメント 損失（△）	20,290	4,496	4,053	△2,588	3,733	1,589	31,573	△3,725	27,848

(注) 1 セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じている。

2 「消去調整他」には、配賦不能営業費用、セグメント間の内部取引消去などが含まれている。

第75期第3四半期連結会計期間（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）

	インダストリアルオートメーションビジネス (百万円)	エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス (百万円)	オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス (百万円)	ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス (百万円)	ヘルスケアビジネス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去調整他 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
①外部顧客に対する売上高	62,742	21,207	21,173	12,531	16,947	13,349	147,949	1,652	149,601
②セグメント間の内部売上高	1,505	12,870	63	951	15	3,846	19,250	△19,250	—
計	64,247	34,077	21,236	13,482	16,962	17,195	167,199	△17,598	149,601
営業費用	57,896	32,328	20,819	13,794	16,091	18,089	159,017	△16,840	142,177
セグメント利益 またはセグメント 損失（△）	6,351	1,749	417	△312	871	△894	8,182	△758	7,424

(注) 1 セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じている。

2 「消去調整他」には、配賦不能営業費用、セグメント間の内部取引消去などが含まれている。

第76期第3四半期連結会計期間（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）

	インダストリアルオートメーションビジネス (百万円)	エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス (百万円)	オートモーティブエレクトロニックコンポーネンツビジネス (百万円)	ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネス (百万円)	ヘルスケアビジネス (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去調整他 (百万円)	連結 (百万円)
売上高									
①外部顧客に対する売上高	62,559	19,341	24,403	13,334	19,422	18,717	157,776	1,689	159,465
②セグメント間の内部売上高	1,245	12,881	57	892	24	4,607	19,706	△19,706	—
計	63,804	32,222	24,460	14,226	19,446	23,324	177,482	△18,017	159,465
営業費用	58,222	30,936	23,187	14,933	17,630	21,087	165,995	△16,387	149,608
セグメント利益 またはセグメント 損失（△）	5,582	1,286	1,273	△707	1,816	2,237	11,487	△1,630	9,857

(注) 1 セグメント間の内部取引における価額は、外部顧客との取引価額に準じている。

2 「消去調整他」には、配賦不能営業費用、セグメント間の内部取引消去などが含まれている。

第75期第3四半期連結累計期間および第76期第3四半期連結累計期間ならびに第75期第3四半期連結会計期間および第76期第3四半期連結会計期間におけるセグメント利益（△損失）の合計額と法人税等、持分法投資損益控除前四半期純利益との調整表は次のとおりである。

項目	第75期第3四半期 連結累計期間 (百万円)	第76期第3四半期 連結累計期間 (百万円)
セグメント利益（△損失）の合計額	31,716	31,573
その他費用（△収益）－純額－ 消去調整他	3,814 △1,579	△368 △3,725
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期純利益	26,323	28,216

項目	第75期第3四半期 連結会計期間 (百万円)	第76期第3四半期 連結会計期間 (百万円)
セグメント利益（△損失）の合計額	8,182	11,487
その他費用（△収益）－純額－ 消去調整他	2,174 △758	△1,139 △1,630
法人税等、持分法投資損益控除前 四半期純利益	5,250	10,996

N 重要な後発事象

FASB会計基準書第855号「後発事象」を適用している。当基準書は、後発事象が認識された日付、未認識の後発事象の性質および財務上の影響の見積りの開示について規定している。

当社は、平成25年1月30日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議した。

1. 消却する株式の種類 当社普通株式
 2. 消却する株式の数 12,000,000株
(消却前の発行済株式総数に対する割合 5.02%)
 3. 消却予定日 平成25年2月28日
(ご参考)
- 消却後の発行済株式総数 227,121,372株

なお、上記事項以外に、本四半期報告書が発行可能な状態となった平成25年2月13日現在、該当事項はない。

2 【その他】

平成24年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議した。

- 1 配当金の総額・・・・・・・・・・3,082百万円
- 2 1株当たりの金額・・・・・・・・・・14円00銭
- 3 支払請求の効力発生日および支払開始日・・・平成24年12月3日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行った。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

オムロン株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田 和保

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高居 健一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 酒井 宏彰

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオムロン株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注記事項I参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注記事項I参照）に準拠して、オムロン株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※ 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。